



禁煙ジャーナル

■発行人 一般社団法人 タバコ問題情報センター [代表理事・渡辺文学]

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-1-4 九段セントラルビル 203

TEL: 03-3222-6781 FAX: 03-3222-6780

《郵便振替》00120-0-159803 【印刷】遠藤印刷 1部500円

No. 321

新型コロナ禍&改正健康増進法 禁煙の決断促すきっかけだ！ ～JTのあり方 鋭く批判も～

2008年3月、産経新聞の「正論」欄で「たばこ1箱1000円」を提唱された笹川陽平氏（日本財団会長）は、その後も「ブログ」や「正論」欄で、何回もたばこ問題の解決に向けての提案を続けておられます。「たばこ事業法」の問題点や広告規制、厚生労働省の弱腰、国会議員の関与などなど、幅広く禁煙推進に向けての提言ですが、私が作った「ニコチン惨歌」や「禁煙ジャーナル」も紹介頂きました。その笹川氏が、このほど「新型コロナとたばこ」と題して、2回にわたり「ブログ」を書かれたので、紹介させていただきます。（渡辺文学）

新型コロナとたばこ（1）

日本財団会長 笹川 陽平

■禁煙に踏み切る絶好のチャンス



新型コロナウイルスの感染が世界に拡大する中、喫煙者は感染しやすく、重症化するリスクが高いとして、禁煙を呼び掛ける動きが内外で顕著となっている。

私は2008年以降、当時1箱300円前後

だったたばこ価格を1000円とするよう何度か提案してきた。そのたびに賛否両論、極端な反応にはバカ、死ねというものであった。

メディア記者の反応はことのほか鈍く、両論併記が常であった。

当時、左手にたばこ、右手で原稿を書くのが記者のスタイルとされ、反応は鈍かったが、時代が変わってパソコン時代となり、両手を使う必要性から禁煙者は大幅に増加したようだ。

私の考えは価格を欧米並みに引き上げることで禁煙を後押しし、非喫煙者が他人の「副流煙」を吸い込む受動喫煙を減らすのが狙いだった。

このたびの新型コロナ禍は、自分の命を守り家族を守って喫煙をやめる絶好の機会。「今こそ禁煙を」と改めて訴える。

外電によると、呼吸器系や肺の専門家、医療関係者などをつくる国際結核肺疾患連合は4月6日、新型コロナウイルスのリスク低減に向け、喫煙者に禁煙を求めるとともに、たばこ会社に製品の製造と販売の停止を呼び掛けた。喫煙によって免疫系が低下し弱まった肺が、新型コロナに感染すると、さらにダメージを受け重症化する確率が高まるためだ。

日本禁煙学会（作田学理事長）もこれに先立つ3月30日、タバコ問題情報センター（渡辺文学代表理事）と連名で、「新型コロナに罹患しない・させないために」と題し、「禁煙をする」「受動喫煙を避ける」よう呼び掛ける緊急提言を発表している。

日本たばこ産業（JT）の全国たばこ喫煙者率調査によると、2018年の成人男性の平均喫煙率は27.8%、女性は8.7%。2008年から10年間で男性は11.7%、女性は4.2%減っている。確実な減少傾向にあるが、成人男性で見ると、なお1400万人が喫煙している計算になる。“禁煙先進国”に比べ未だ高い水準にあり、日本禁煙学会では新型コロナ禍を機に一層の活動強化を目指している。

—* 1面からの続き—

しかし、植木等の歌の文句ではありませんが、「わかっちゃいるけどやめられない」が喫煙者の率直な気持ちでしょう。しかし、あなたの命に関わる問題です。どうぞ一服吸いながら真剣に考えてください。

【2020年4月26日「ブログ」より】

新型コロナとたばこ（2）

■禁煙促す改正健康増進法

連日の新型コロナウイルス感染拡大の報道でニュースの扱いが今一つ地味だったが、受動喫煙対策を盛り込んだ罰則付きの改正健康増進法が4月1日、全面的に施行された。

「日本禁煙学会」（作田学理事長）や「タバコ問題情報センター」（渡辺文学代表理事）、その他関係者の努力が実ったことに、感謝の誠を捧げたい。

飲食店やオフィスは「原則屋内禁煙」となり、飲食店で見ると全国45%、国より厳しい受動喫煙防止条例が制定された東京都では都内の飲食店の84%約13万軒が対象となる。

喫煙環境の変化を受け喫煙者の60%以上が禁煙を考えている、といった民間調査結果があるほか、喫煙者がウイルスに感染した場合、重症化する恐れが高まり、法改正と新型コロナ禍の両面から喫煙者の禁煙が加速すると予想する。是非、そうなるよう期待したい。

これにより学校、病院、児童福祉施設、市役所庁舎などに限られていた禁煙場所は、飲食店やオフィス、事業所を含むさまざまな施設に広がり、違反した場合の過料や指導も定められている。

飲食店などはすべて禁煙とするのが望ましく、改正法は受動喫煙を防止する上でも徹底を欠く気がするが、客を確保する上で禁煙に消極的な飲食店も多く、人手不足もあって取り締まりの徹底も難しい状況にある。

「百里の道は九十九里をもって半ばとす」という諺もある。改正健康増進法が施行されても多くの問題は残る。特に日本たばこ（JT）のあり方は国際的にもいずれ批判の対象となる多くの問題を内包している。この件はいずれ書いてみたい。

改正健康増進法の全面施行を前にジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社が禁煙と受動喫煙に関する意識についてインターネット調査したところ、喫煙者の72.2%が「肩身が狭い」と感じ、「禁煙しよう（したい）と思う」との

回答も64.3%と、「思わない」（35.7%）を大きく上回っている。

喫煙を容認する環境は厳しさを増している。新型コロナ禍による重症化の可能性は、改正健康増進法と並び、禁煙を決断する新たなきっかけとなるはずだ。

禁煙はあなた自身の健康、そして何よりも、愛する家族を守る為にも是非、実現していただきたい。

【2020年5月1日「ブログ」より】

「ニコチンがコロナ予防に効く」 に根拠なし=デマには注意を!

人々を感染の恐怖に震え上がらせている新型コロナウイルス。私たちは今、未知のウイルスに立ち向かっている最中だが、巷には信憑性のない噂も出回っている。専門家は、ニコチンがコロナ予防に効くという情報の危険性を警告している。

ニコチンが新型コロナウイルスの予防に効果的という主張が、検証・根拠が不足しているにも関わらず、いくつかの報道機関によって報告されている。

■タバコ・薬物も悪化リスク高める

米国立薬物乱用研究所のヴォルコウ博士は、喫煙の健康被害を示唆するとともに、タバコ・マリファナその他の薬物についても「新型コロナウイルスで症状が悪化したり死亡したりするリスクが高まる」として警告している。同博士はこの世界的なパンデミックが展開するにつれ、すでに薬物乱用による中毒障害にある人たちは、感染した場合著しく影響を受ける可能性があるとも指摘した。

「New England Journal of Medicine」の調査に基づくと、ウイルス発生初期に感染した中国の患者のうち12.6%が常習喫煙者であったことが判明しており、新型コロナウイルスに関する生存主要評価項目を満たさなかった患者の高い割合を喫煙者が占めているとのことだった。

■ニコチンに感染症防ぐ効果なし

医療専門家は、喫煙が新型コロナウイルスを予防・制御できるといった全ての情報に対し、潜在的な有害性を示唆している。ニコチンにはコロナウイルスに限らず、あらゆる病気や感染症を防ぐ効果はなく、かえって健康を害するものとして警告を強めている。

デマや噂ばなしに惑わされず、基本的な健康を守るために一人一人正しい知識を身につけることが大切である。

【yahooニュース=Amy Yang：2020年5月2日】

2020 WHO 世界ノータバコデーのよびかけ

巧妙なセールストークとウソで若者をタバコとニコチン 使用に誘うタバコ産業のくわだてを打ち破りましょう

タバコ産業は数十年間にわたって、若者をタバコとニコチン製品使用に誘い込むために、豊富な資金を投入して、積極的な販売促進戦略を進めてきました。タバコ産業の内部文書には毎年タバコ関連疾患で死亡する数百万人のタバコ使用者を補充するために、若者を新たな消費者とするための徹底的調査を行い、しっかり練られた販売促進戦略を駆使してきたことが如実に示されています。

今年の「世界ノータバコデー」では、若者にタバコ・ニコチン製品を売り込むためのタバコ産業の系統的・積極的な販促活動を跳ね返すためのキャンペーンを行うとともに、若者自身が巨大タバコ産業の策動にストップをかける闘いに立ち上がることを呼びかけます。

今年の「世界ノータバコデー」キャンペーンでは以下のことを目標とします。

- ・害が少なく、さまざまなフレーバーを楽しめるスタイリッシュな新製品であるというセールストークで若者に売り込もうとしているタバコ製品企業のウソとまやかしのテクニックを明らかにする。
- ・タバコ産業が若者にタバコ・ニコチン製品を使うように仕向けている事実を伝える。
- ・ポップカルチャー、ソーシャルメディア、家庭、学校などの場のインフルエンサー（多くのフォロワーを持つ世論形成に影響力のある人）が、巨大タバコ産業が若者を取り込むことを防ぎ、若者たちが巨大タバコ産業に対する闘いに立ち上がるよう働きかける

■タバコ産業が若者をだますテクニック

【フレーバー】タバコ・ニコチン製品にチェリー、キャンデー、ガム風味など若者に好まれるフレーバーを添加して、害がなく使用しやすい製品であると見せかける。

【洗練されたデザインで魅力的に見せる】シャレた外観で携帯しやすい製品もある。

【有害物質と健康被害が少ないと宣伝】科学的証拠なしに紙巻きタバコより害が少ないと宣伝する。

【SNSの有名人に宣伝させる】インスタグラムなどのインフルエンサーにタバコ・ニコチン製品の宣伝をさせる

【子どもの目に触れやすい場所で宣伝】子どもに人気のあるお菓子やソフトドリンクコーナーのそばにタバコ・ニコチン製品と宣伝資料を配置できるように、経営者に報奨金を出す。

【タバコ・ニコチン製品のばら売り】子どもが買いやすいように、紙巻タバコやタバコ・ニコチン製品のばら売りを学校の近くで行う。

【タバコ製品の宣伝】映画、テレビ、インターネット映像サービスでタバコCMを放映する。

【タバコ自販機】若者の出入りの多い場所に、目を引く広告とタバコ製品を陳列したタバコ製品自販機を設置する。

【タバコ対策を妨害するための訴訟】有害警告表示の強化、小売店でのタバコ製品陳列規制、子どもへのタバコ製品売り込み活動の制限（学校近傍での宣伝販売の禁止）を骨抜きにするための訴訟。

■行動の呼びかけ

次世代が、タバコ・ニコチン産業のウソに騙されることを許すような世界であってははいけません。タバコ・ニコチン産業は、タバコ製品を使うかどうかについて若者の選択の自由を守るふりをして、ニコチン依存症となった彼らから死ぬまで利益を吸い上げるのです。毎年世界で数百万人がタバコ製品と引き換えに命を失っています。

世界保健機関は、多くの若者をつながりを持つポップカルチャー、ソーシャルメディア、家庭、学校の全てのインフルエンサーに呼びかけます—若い世代をタバコ製品使用に引きずり込むためのタバコ・ニコチン業界の宣伝手法がいかさまであることを拡散してください。

若者が巨大タバコ産業のウソにだまされず、タバコ・ニコチン製品の使用を拒否する力を持つようになることが必要です。

【訳：松崎道幸（日本禁煙学会理事）】

全国の議会の「屋内全面禁煙」の状況と 受動喫煙防止の今後の課題

—改正健康増進法の全面施行を踏まえ—

子どもに無煙環境を推進協議会 野上 浩志

■議会は率先して「屋内全面禁煙」に

改正健康増進法（及び各地の受動喫煙防止条例）が4月1日より全面施行されたが、それに伴い第二種施設の国会・議会も「喫煙専用室」以外の屋内禁煙が義務付けられた。

2019年7月1日より第一種施設の行政機関の敷地内禁煙（例外措置として「特定屋外喫煙場所」の設置は可）が義務付けられていたが、国会・議会は公共性が極めて高く、税金で賄われていることから本来的には行政機関と同じく第一種施設とされ、議員・職員・来庁者などの健康が受動喫煙の危害から守られるべきで、2017年3月に公表された厚労省の当初の法案でもそうになっていた。

2019年7月からの行政機関等の禁煙の義務付けに伴い、第二種施設である裁判所（2020年1月から）、及び国立国会図書館・関西館（同4月から）が全て敷地内禁煙となることが発表され、同じく第二種施設の地方議会の禁煙化の報道も相次いだ。また2019年5月に、北海道庁の建設中の新議会棟に（設計段階では無かった）喫煙室を設置する動きが表面化した。

これらの動きを踏まえ、改正健康増進法の全面施行半年前の2019年10月から、第二種施設の地方議会（都道府県議会、全国の市・区議会、一部町村議会）の「屋内全面禁煙」の2020年4月以降の状況について電話による照会調査を行った。喫煙室がある・存続予定等を聞き取り、存続予定・未定の議会については、禁煙とするよう資料送付や陳情・要請を行い、2020年4月に再確認の照会をし、以下4月1日現在の禁煙状況を取りまとめた。

■都道府県議会、市・区議会の状況

敷地内禁煙を含む「屋内全面禁煙」以上は、47の都道府県議会のうち26（55%）、20の政令指定都市市議会では19（95%）、60の中核市市議会では54（90%）で、政令指定都市と中核市を含む全市議会と東京都特別区区議会（総計815）では796（97.7%）で、「屋内に喫煙室有り」の市・区議会は19（2.3%）であった。

2019年12月までに調査した時点では、52議会に喫煙室があった（2020年4月以降も残すかどうか未定を含め）が、4月1日までに12議会が屋内禁煙となり、都道府県と全国の市・区議会862のうち、喫煙室が残る議会は40（4.6%）となった。都道府県

議会について「敷地内禁煙」、「屋内全面禁煙」、「喫煙室あり」別のマップを図に示し、喫煙室の残る市・区議会の一覧を表に示した。

【表：喫煙室が残っている市・区議会】

群馬（高崎市）、埼玉（越谷市、春日部市）、東京（江東区）、神奈川（川崎市）、富山（氷見市）、福井市、愛知（豊田市、一宮市、東海市）、三重（津市、いなべ市）、奈良（橿原市）、島根（安来市）、山口（防府市）、長崎（長崎市、平戸市、松浦市）、大分市 ※（2020年5月20日現在）

また受動喫煙防止条例の施行されていた5都府県（東京、神奈川、静岡、大阪、兵庫）の町村議会は全てが「屋内全面禁煙」以上であった。

一方で、国会議事堂（衆議院、参議院、議員会館、憲政記念館）には、情報開示請求の結果では、概ね各階に喫煙室が設置されていた。（衆議院本館・分館・別館に12、衆議院議員会館に42、憲政記念館に1、参議院本館・分館・別館に9、参議院議員会館に15）

なお、以上の調査結果の詳細は以下に掲載している。

<https://notobacco.jp/pslaw/gikaikinenjokyo1911shichoson.htm>

■北海道議会の新議会棟は当面「禁煙」

北海道議会については、2020年5月25日から新議会棟の使用が始まった。自民党会派のみが当初JTの寄贈による喫煙室の設置を決議していたが、北海道医師会をはじめとした幅広い抗議や、北海道新聞などのマスメディアの批判的報道もあって、設置されないままとなっており、庁舎管理者の知事は新庁舎の敷地内禁煙の実施に関連して、議会の総意でなければ認めがたいニュアンスの発言をしている。

■仙台市議会、宮城県議会も禁煙に

これらの議会は、4月以降も喫煙室を存続させる予定であったが、禁煙みやぎ、日本禁煙学会、河北新報などマスメディアの批判的報道等があり、各医師会からの要請（東北圏では仙台市議会以外の全ての市議会が禁煙であるなど）を受け入れる形で、3月に喫煙室の撤去が決められた。

—* 5面に続く—

これらの議会は、4月以降も喫煙室を存続させる予定であったが、禁煙みやぎ、日本禁煙学会、河北新報などマスメディアの批判的報道等があり各医師会からの要請を受け入れる形で、3月に喫煙室の撤去が決められた。

■議会の「屋内全面禁煙」の考察

議会は大半が行政庁舎と同じ建物内か別棟であっても隣接しているため、2019年7月からの第一種施設の行政庁舎の禁煙義務化にあわせて共同歩調を取り「喫煙専用室」設置をとる議会・議員はごく少数であったであろうし、行政の健康部局や保健所などのネットワークや連携などで、改正健康増進法の「屋内全面禁煙」の趣旨を踏まえ自主的な禁煙を判断したように思われる。

全国の市・区議会では「喫煙専用室」が残っているのは19議会（2.3%）に過ぎないが、都道府県議会の21議会（45%）に「喫煙専用室」が残っているのは、地方議会のリーダー的立場で、模範として法の趣旨を先取りすべきなのに、何とも示しがつかず、不遜この上ないことと言わざるを得ない。国会については特権的特別扱いがそういつまでも続くものではないように思われる。

本会としても、第二種施設の「屋内全面禁煙」の徹底を促すためにも、日本禁煙学会や医師会等とも連携し、法の趣旨を踏まえ、自主的に議会・国会を禁煙とするよう、引き続き監視し、要請を続けていくこととしている。

■例外なき「屋内全面禁煙」の法改正を

4月1日から「原則屋内全面禁煙」が義務化されたことは、喫煙と受動喫煙が新型コロナウイルス感染症の罹患と重症化のリスク要因と指摘されていることから、本感染症の広がりやを少しでも食い止める一助となった可能性があると思われる。

しかし、バーやクラブ、キャバクラ、スナックなどが（タバコ業界関係者の助言で）喫煙目的店に衣替えしたと報道され、これが一因となってこれらの施設がクラスター発生源となった可能性があるのではないか。

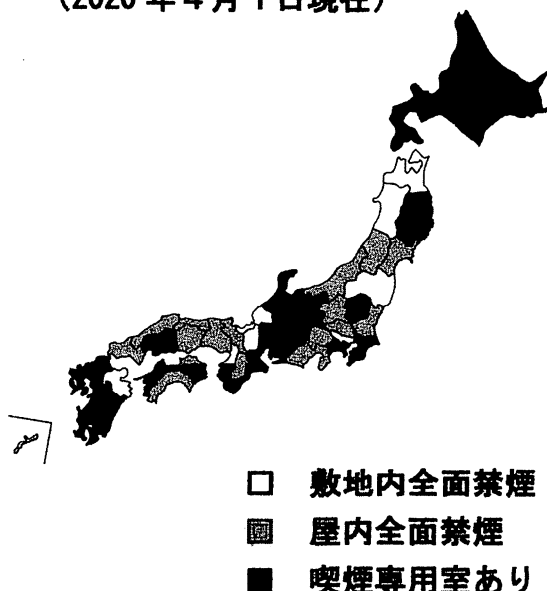
今後、小規模飲食店の喫煙可能店でのリスクの可能性も否定できないことから、新型コロナ禍の抜本的な対策の一環として、早急な法改正による「例外なき屋内全面禁煙」の義務付けが不可欠と思われる。

【のがみ・ひろし=日本禁煙学会理事】

【喫煙室が残っている21道県議会】

北海道、岩手県、栃木県、千葉県、神奈川県、富山県、石川県、長野県、岐阜県、愛知県、三重県、和歌山県、広島県、徳島県、愛媛県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県

図 都道府県の禁煙状況
(2020年4月1日現在)



企業の喫煙規制の取り組み

喫煙に関する企業の取り組みが活発化するなか、帝国データバンクは、企業における喫煙に関する意識について調査を実施した。

自社の本社事業所または主要事業所の喫煙状況について「完全分煙」が53.9%でトップだった。「全面禁煙」は26.2%で4社に1社が導入しており、前回調査から4.1ポイント増加した。

全面禁煙については、規模が小さい企業ほど全面禁煙を実施している割合が高い。業界別では『金融』がトップで『不動産』も4割台と高かった。次いで『サービス』『卸売』『小売』が続き、顧客と近い距離で接する業界で高水準が目立った。

地域別では、大都市で全面禁煙を実施している割合が高い傾向がみられた。全面禁煙を実施している企業からは「喫煙場所の撤去と営業車内の喫煙も禁止した」など従業員への健康に向けた取り組みに加え「禁煙キャンペーンを行って喫煙率を下げる活動をしている」といった企業もみられた。

「マイナスの影響がある」企業を業種別にみると「旅館・ホテル」がトップ。次いで、「飲食店」や「娯楽サービス」などのサービス業に加え「飲食物品小売」といった小売業など、個人向けの業種が上位に並んでいた。

厚生労働省は「受動喫煙防止対策助成金」を用意しているが、企業から「もっと利用しやすい仕組みにしてほしい」との意見もあった。政府や行政は、企業が円滑に取り組めるよう、わかりやすい制度の策定や周知を進める必要があると思う。

【yahooニュース：2020年5月10日（要旨）】

喫煙者が多い日本球界①

～「禁煙できない」根深い理由～

スポーツライター 広尾 晃

「日本野球界の悪習」として古くから指摘されてきたのが、喫煙の問題だ。他のスポーツと比べても圧倒的に喫煙者が多いといわれている日本野球界。

喫煙・受動喫煙がマナーではなくルールで縛られる時代が到来し、新型コロナウイルスの感染、重症化への悪影響の可能性が指摘されています。

広尾晃氏は、日本の野球界全体に根強く残る“喫煙文化”に疑問を呈し「いまこそ日本野球界は全面禁煙を」と訴えました。スペースの都合により、2回に分けて掲載させていただきます。(編集部)

■注目される喫煙のリスク

新型コロナウイルス禍は、とどまるところを知らない。もはやNPBもJリーグもいつ公式戦をすることができるのか、見通せなくなっている。

このところ、話題に上っているのは、新型コロナウイルスへの「喫煙者に対する煙のリスク」だ。

日本を代表するコメディアン、志村けんさんの死は日本中を悲しませたが、彼は数年前まで1日60本というヘビースモーカーであり、2016年には肺炎で入院していたことが報道され、COPD（慢性閉塞性肺疾患）ではなかったかともいわれている。

COPDの病歴を持つ人は、新型コロナウイルスに感染した時に重篤化しやすいとされる。

■日本のプロ野球は「愛煙家の巣窟」

そういうことを考えるにつけ、筆者は憂鬱になる。取材対象とする「日本野球界」は、今に至るも「愛煙家の巣窟」だからだ。

NPB各球団の本拠地は、すべて禁煙となっている。観戦者が喫煙したければスタジアム内の喫煙スペースに行く以外に手はない。東京ドームなどはビニールのカーテンに仕切られた半ば屋外で、人々は肩身が狭そうにたばこを吸っている。

しかし、選手たちはそうではない。多くの球場ではダッグアウト裏には小さな喫煙スペースが設けられている。そこには灰皿が設置され、換気扇が回っている。選手は試合の合間にここに立ち寄っては、一服していくのだ。およそ今時のスポーツで、試合の最中にたばこを吸うことができるのはプロ野球だけではないか？

球団は、誰が喫煙しているかを明かさず、新聞系のメディアも報道しない。以前、巨人の原辰徳監督が「岡本は禁煙しないと」と発言したことが報じられたが、そういう形で漏れ聞こえるだけだ。しかしプロ野球選手の喫煙率はいまだに高い。

筆者は各球団が催す野球教室や普及教室の取材をよくする。選手や指導者たちは、子どもたちの目線になって、本当に熱心に指導をする。その光

景は感動的ですからあるのだが、彼らの多くは休憩時間になると喫煙室にたむろして、一服するのである。

しかし平成この方、人前で堂々とたばこを吸う姿を見る機会は、どんどん減ってきている。プロ野球のユニホームを身にまとった偉丈夫たちがたばこをくゆらせるのを見ることに、ちょっとしたショックを受け「子どもたちやお母さんにこの姿は見せられないな」と思う。

■「昭和」には日常風景だった喫煙習慣

昭和の時代、喫煙は大人の男のたしなみという風潮がたしかにあった。新幹線でもたばこが吸えたし、ホテルのロビーにも灰皿が設置されているのが当たり前だった。

当時の雑誌では選手に「好きなたばこの銘柄」を聞くことがあった。記憶している限りでは「吸いません」という選手は少なかった。

スポーツ紙のインタビューで、殊勲打を打った選手がロッカールームでうまそうにたばこを吸った後で、口から煙を吐きながら記者の質問に答えるのは男の美学のようなものだった。

JT（日本たばこ産業株）の全国喫煙者率調査によると、巨人のV9が始まった1965（昭和40）年、日本の成人男性の喫煙率は82.3%だった。5人大人の男がいれば4人以上がたばこを吸っていたのだ（2018年の喫煙率は27.8%）。当然、スポーツ選手もほとんどが愛煙家だった。

プロゴルフのトーナメントでは、スタート前に選手たちがパターの練習をしながら喫煙していた。付き人が灰皿をもって立っていたりした。当時のゴルフコースには四阿（あずまや）に灰皿が置いてあった。

大相撲の巡業でもテントの中でたばこを吸いながら出番を待つ力士がいた。

筆者が通った大学の大学野球の公式戦では、応援する学生がたばこの煙を一斉に吐き出す「煙幕攻撃」が名物だった。スタンドには春がすみのように紫煙が漂ったものだ。

■「喫煙者への配慮」が行き届く時代錯誤

しかし、その当時から、日本のアスリートの喫煙習慣は、世界的にみれば非常識なものだった。

1988年にスポーツジャーナリスト、マーティ・キーナート氏は『ニッポン野球一刀両断』という本の中で「日本のプロ野球選手は7、8割が吸っているようだが、大リーガーは9割以上が吸わない」と書いている。（以下次号）

【ひろお・こう】



《メディア・ウォッチング》

■4/14『しんぶん赤旗』「喫煙者の肺 ウイルス侵入口多い」。カナダ・ブリティッシュコロンビア大学研究チームが、COPDの人と現在喫煙している人の肺は新型コロナウイルスが細胞に侵入する“入り口”(ACE2受容体)が多いことがわかった、という内容。レング博士のコメント「新型コロナから身を守るためにも喫煙をやめた方がよい」■4/18『毎日』[くらしナビ]「今こそ禁煙が重要な理由」。オンライン禁煙治療などにあたっている石澤哲郎医師に新型コロナの感染拡大や重症化防止のために禁煙が必要な理由を聞く優良記事■4/20『読売』「『3密』喫煙所閉鎖の動き」「マスク外して呼吸充滿」「『重症化リスク高い』研究報告相次ぐ」。新型コロナウイルスと喫煙の危険性を解説しつつ、港区と品川区内の喫煙所閉鎖の動きを取材■4/21『日本歯科新聞』「禁煙21団体 声明で禁煙呼びかけ」「新型コロナ感染のリスク低減に向け」。21の禁煙団体が国際結核肺疾患連合の呼びかけを「強く支持する」声明文を紹介。同連合の活動内容や21団体の発した声明文の内容を解説■4/22『日経』[がん社会を診る/中川恵一 東大病院准教授]「何歳からでもとにかく禁煙」。①喫煙はがん原因のトップ②喫煙は新型コロナ重症化のリスクを高める③禁煙は遅すぎることではない④喫煙室は「3密」の場で、マスクも外しているから危険。新型コロナを機に禁煙が広がることを願っている■4/23『日刊ゲンダイ』[著者インタビュー/矢崎泰久氏]「人がタバコを吸うのは文化そのもの」。矢崎氏は名うての喫煙奨励派。「タバコは文化そのもので、文化が禁じられることで人類は多大な損害を受ける」とおっしゃいますが、人類のうち賢明で先見性のある人々は「文化」と「損害」の文字を「麻薬」と「利益」に置き換えて理解すべきことに気が付き、啓発活動をしてきたのです(笑)■4/23『毎日』[Dr. 白沢 100歳への道/白澤卓二・お茶の水健康長寿クリニック院長]「健康寿命を伸ばす生活習慣」。ヘルシンキ大ニベルグ博士らの研究チームの「BMIが25未満」で①喫煙歴なし②活発な身体活動③酒はほどほど、の三つの生活習慣のうち、少なくとも二つを満たしている人が健康長寿を全うできるという研究結果を紹介■4/24『産経』[産経抄]。内容は①昨年の都内住宅火災の死者83人中4割が寝たばこ②喫煙専用室は「三つの密」③喫煙は新型コロナ感染症の重症化を招きやすい。WHOは禁煙の呼びかけ④故高峰秀子さんはヘビースモーカー⑤女優引退後は執筆、家事、読書など家の中。令和時代に存命なら「自粛生活」を苦しめない人⑥喫煙者は外出する気にはなれないだろうが、寝たばこは絶対にしないで。(高峰さんも)マナー違反には厳しかったそうだ。⇒やはり自らは「禁煙」を口にできず「吸うならマナーを守ってね」が結論(笑)■4/26『読売』「本厚木駅喫煙所閉鎖」「南口通勤時間『3密』状態」。厚木市のコメント「…市民からの声を受け、迅速に対応した。今後も安全に配慮していきたい」。「市」は鈍感でした(笑)■4/26『東京』「たばこで『重

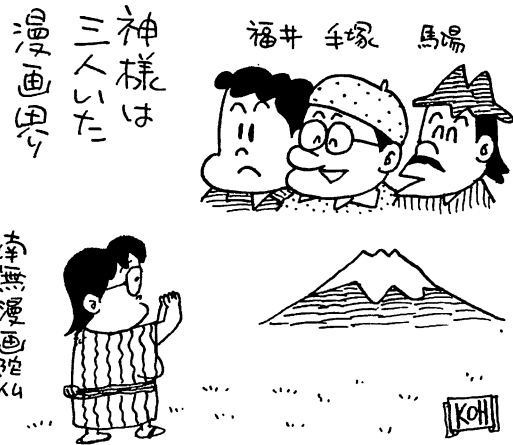
症化のリスク』」「主要駅周辺の喫煙場所全15カ所を閉鎖」。川崎市が新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐために指定喫煙所を閉鎖、家庭ごみの出し方で市が啓発しているという状況と、日本医師会理事・羽鳥裕医師に新型コロナと喫煙の関連を取材■4/27『日経』「在宅勤務『つい喫煙』注意」「コロナ重症化リスクに」。喫煙者の話/①家にいると周りの目を気にしなくていいのでつい吸ってしまう②在宅でたばこが増えた③パソコンがフリーズしやすく、イライラして吸ってしまう。日本禁煙学会作田学理事長のコメント「禁煙すれば感染症への抵抗力は回復する。これを機に禁煙してほしい」■4/28『日本歯科新聞』「喫煙者は発症しやすい」。新型コロナと喫煙の関連を中心に、感染力、治療薬、診断、医療崩壊などの問題に触れたほか、政府の“情報隠し”を糾弾。「この感染症について世界が注目していると『禁煙ジャーナル』で触れたが、日本政府は一切触れなかった。そればかりか、症例が多かった国からは症状や治療法について情報がもたらされているのに、日本は必要な情報を制限している」■5/11『神奈川新聞』「喫煙は重症化と関連か」。海外の研究結果①米ハーバード大「喫煙者は重症化のリスクが1.4倍高く、死亡リスクも2.4倍高い」②英ノッティンガム大「ウイルスや細菌が原因となり病院外で起こる肺炎のリスクは、喫煙者で2.17倍、やめた人で1.49倍高かった」を紹介■5/11『日経』「コロナ重症化 受容体が影響か」「ウイルス侵入の『足場』ACE2」。新型コロナに感染した場合、持病を持つ人が重症化。その共通要因としての特定のたんぱく質「ACE2やウイルスが細胞に侵入するメカニズム、ACE2の働きを抑制する既存薬について解説。①喫煙者が感染すると重症化する恐れがある②喫煙者の肺炎の起こるリスクが非喫煙者に比べて14倍も高い③ニコチンが気道上皮細胞のACE2の数を増やす④喫煙すると、気道上皮の粘膜などが傷つく。「異物を体外に運ぶ線毛がなくなるなどウイルスへの防御機能が下がる」など、充実した優良記事■5/12『日本歯科新聞』「受動喫煙でも睡眠の質が低下」。岡山大学院医歯学総合研究科らの研究で「受動喫煙により睡眠の質が低下して歯ぎしりにつながる可能性がある」という内容■5/13『日経』「食道がん前段階対処法は」「禁酒・禁煙でリスク低下も」。ただちに「がん」と診断可能な状態ではないが「前がん病変」はがんになる可能性があるとし「アルコールやたばこをやめるのが最善の対処法」■5/23『日経』「行き場失う愛煙家」「『3密』回避で喫煙所閉鎖」「敷地外で喫煙相次ぐ」。新型コロナの感染拡大にともない喫煙所が閉鎖され「結果として閉鎖を免れた喫煙所に愛煙家が集中し、あふれて敷地外で喫煙する姿も散見される」など、見出しを含め4回も“愛煙家”が登場。また「喫煙文化研究会」なる事務局長に、「喫煙を禁止されるような状況は愛煙家にとって過度なストレスとなる」とコメントさせるなど、せっかくの記事(末尾で「禁煙を考えてみてはどうか」の提言)も台無し(苦笑)。【氷飽健一郎】

漫筆

禁煙ジャーナル読者のみなさま、お元気ですか？と心から心配して申し上げます。お元気でない方もいらっしゃるに決まっているからです。いったい「いつまで続くこのネタぞ」というくらいのものだ◆中国武漢発新型コロナウイルスです。みなさまはどうされているか知りませんが老人のぼくは決まっています。それが「何もしない」だ。実をいうと今年になってから家からほとんど出ていません。まったくというわけではありませんが、それだって妻のゴミ出しの手伝いくらいのものです(笑)。それ以外は、ただジッとしている。ようするに、よく問題となる「老人の引きこもり」ですね(笑)。しかしこうして一人ぼっちで家にいるということは漫画家には普通のことです。20歳で漫画家となり75歳の今日までずっとそうやってきました。まあ漫画の仕事があったころはそれでよかったのですが今はそうでなくなりましたので、テレビを見たり本を読んだりしています◆昔はこんな時、友人の漫画家達に電話をし、ダラダラと長話をしたのですが今はこれができなくなってしまった。仲の良かった漫画家のほとんどが故人です。何回もネタとしたようにアチラの人となってしまった。そういう人と話をするにはどうすればよいか？それが作品を読むことだと思ふ。残された漫画を通して友人達と会話を楽しんでいます。もちろんお酒を飲みながらですが(笑)。漫画家というのは自分の作品の中で必ずといっていいほど遊び(?)をやります。それが楽屋落ちといわれるものだ。ようするに読者には分からないけど漫画家仲間には分かるというギャグを入れて遊ぶのです。もともとこれは漫画の神様である手塚治虫先生が始めたことです。今の若い

読者の方は知らないでしょうが昔の漫画家というのは自分の作品の中で漫画家を登場させたものでした◆手塚治虫先生の漫画の中には当時ライバル(?)とされた「イカグリ君」の福井英一先生と「ポスト君」の馬場のぼる先生が必ず登場したものです。ところがそれが元で、ちょっともめるようなこともあったらしい。手塚先生の漫画に出てきた福井先生に似た人物の漫画に福井先生が怒り、もめた時馬場のぼる先生が間に入って「それは手塚氏が悪い！バツとして今日の勘定は手塚氏が払いなさい」とまとめた話など何度読んでも面白く感動したものです◆まあこういう楽しい話ならよいのですが、ぼくのは少し辛かったですね。はらたいら氏と会うと谷岡ヤスジ氏の悪口で盛り上がり、谷岡ヤスジ氏と会うと、はらたいら氏の悪口で盛り上がったものですが、三人で会うといつも高信太郎の悪口で盛り上がったのです。トホホ。まず谷岡ヤスジ氏、そしてはらたいら氏と逝かれました。次は…ぼくかもですね(笑)

【高信太郎】



無煙賛歌

閉鎖した喫煙所脇でプカプカと

ニコチン依存の喫煙者哀れ

都条例意識調査を実施した

都民の八割が条例を評価

コロナ禍の緊急事態解除でも

喫煙所のみ閉鎖続けよ

JTを徹底的にやっつける

BUNKAタブーという雑誌

吸い殻を拾い続けて400回

世田谷区民のモラルは最低

富美郷(文里改め)

【雑記帳】吸い殻拾いが5月18日に400回目を迎えました。拾った本数は24,162本となり一日平均60本でした◆この問題では、コンビニ大手のファミリーマートからも返事が参りました。先にセブンイレブンからも回答が来ており、ローソンからは全く無視されたようです◆本号では、野上浩志氏から全国の自治体の「喫煙所」についてのご報告を頂きましたが、新型コロナウイルスの「3密」でのリスクが報道されて、他の自治体、民間企業、交通機関の喫煙所についても、どんどん閉鎖が進んでいます◆この問題については、とげぬき地蔵尊の来馬明規住職が、精力的に全国の喫煙所の閉鎖状況を調べ、日本禁煙学会のHPで紹介しています。すでに2千か所以上の喫煙所が閉鎖されていますが、今後、緊急事態宣言解除後も、閉鎖が継続されるよう願っています◆ジョンソン・エンド・ジョンソン社が実施した「新型コロナウイルス」に関する意識調査で、喫煙者の64%が「禁煙願望」を持っていることが判明しています◆元ヘビースモーカーだった私も43年前「やめたい」「やめたい」と思いながら吸っていた(吸わされて

いた) 苦い記憶が甦ってきました◆そこに灰皿や喫煙所があれば吸いたくなってしまふのが喫煙者心理です。今後、灰皿と喫煙所の閉鎖継続➡撤去を求めて、関係機関に働きかけを行っていきたく思っております。(文)